

## 【長崎県】 耳の日福祉大会に参加して

3月4日（日）東彼杵町総合会館文化ホールで開催された「第49回耳の日福祉大会」へ行ってきました。

今年は大村支部の担当で、大村市は昨年12月に手話言語条例が制定され、式典では大村市長自ら手話を使ってのあいさつがあり、一生懸命練習されたんだろうなあ、とうれしく思いました。

公演は2部構成で第1部は「手話はいのち～知られざる全日本ろうあ連盟発足の秘話～」というテーマで、俳優の牧山定義さんによる演劇。そして第2部は「上州ろうあ物語り」で、吹野昌幸さん



監督の映画とトークショーの2本立てでした。

演劇は戦時中のろう者の暮らしについて…障害があることで兵役できない！だから自分は町を守るんだ！と戦火の中建物の火消しに奔走したろう者の話や、戦後間もない大変な時期に伊香保温泉で開催された「全国ろうあ者大会」が成功に終わったその裏で実行委員のみなさんがどのようにして準備をされたのか、どんな苦勞をされたのか、という内容の話がありました。

戦後の混乱の中、旅館の確保や食糧難のため旅館側から提示された食料の確保に、自分の仕事や家庭を犠牲にして頑張った人がいたということ体を全部使っての表現と映像とのコラボでとても興味深く、今回の公演を見るまではまったく知らないことでした。

映画の上映では、ろう学校がテーマで群馬県の高崎ろう学校の始まりは？創立記念日？…実はそれよりももっと以前にろう学校の前身となる学校があった！という事などの紹介があり、とても良い内容でした。



長崎のろう学校も戦争中、南島原市の加津佐町に疎開していたと聞いたことがあります。しかし聞いたただけなので本当に疎開していたのか？その場所はどの辺りなのか？どのような状況だったのか？何か記録が残っているのだろうか？今回の講演を聞いて、とても興味がわきました。地域の歴史を知り、先輩たちがどのような生活をしていたのかを学ぶことも大事ですよ。来年は記念すべき50回目です。今からとても楽しみです。

南島原手話サークル 山崎 加津子

## 【福岡県】 たくさん笑った耳の日

3月4日（日）久留米シティプラザにて「第47回福岡県ろうあ者耳の日記念集会」が開かれました。第1部はモンキー高野氏&高島由美子氏のトークショーです。お二人のたくさんの旅行体験のうち、南米旅行についてお話してくださいました。マチュピチュやウユニ塩湖、ナスカの地上絵など、



うらやましい限りです。お二人曰く「南米は1回行けば十分」とのことですが、私は1回行けるかどうか微妙です。

モンキー高野さんの手話表現、さすがです。1つの身体で（当然ですが）たくさんの人や物を表現されていました。リヤマ、アルパカ、ミイラのアルパカ、食用に売られている豚の顔、態度の悪いナスカの運転手、高山病に効くコカの葉の袋にいた幼虫、ボリビアのパーマ屋のおばちゃん、ウユニ塩湖のノリのいいガイドドライバーと、ノリの悪いガイドドライバー…。あんなふうに表示豊かになりたいものです。

第2部はアトラクション。ひょっとこ踊りやマジックを披露していただきました。偶然にも「今日はできない日」だったマジックがあったり、風船を飲み込んだマジシャンが十秒ほど台の後ろに隠れたりもしましたが、とても楽しかったです。最後はみんなで音楽に合わせて入浴体操。動きが入浴そのものなんです。歯を磨く→顔を洗う→右脇→左脇→背中→お腹→オマタ（※豪快に洗う）→歯を磨く…の繰り返し。全員で体を動かして終わりました。たくさん笑った素敵な一日でした。

福岡手話の会 中島 奈緒

## 【熊本県】災害時の手話サークルの役割と家庭での備え

2月4日、朝から雪が舞い散る中、熊本県立大学で熊本県内各地域のわかぎ会員や聴覚障害者関係者、計87名の参加者が集まり、県わかぎ研修会が開催されました。

午前中は、県わかぎ青山会長のあいさつに始まり、歌うママ防災士 柳原志保氏の講演でした。

柳原氏は、東日本大震災を経験され熊本に引っ越してきた後、2児の母でありながら防災士を取得

され、熊本地震にも遭い2度被災された経験を基にテレビやラジオに出演し、県内各地で講演をされています。

内容は、地震が起きた直後の対処の方法や行動の取り方、家族との連絡方法・待ち合わせ場所等「決まり事」を決めておく事や、日常備蓄の方法、地域の人との繋がり等の大切さ、パーソナルカードの備え、近所の安全な場所・危険な場所等に気付ける目を持つこと等様々な事を学びました。

講演の中で、避難所生活をしていて体育館や公民館等の床が冷たく、靴下を2枚履ければいいが、そういうわけにもいかない時の為に、新聞紙1枚で出来るスリッパ作りを教わり、皆で作りました。「今日は片方だけ作りました。ここで終わると忘れてしまうので家に帰ってもう片方を作ってください。」とのことでした。ビニール袋での三角巾・おむつ作りも教わりました。

熊本地震では関連死の方も多く、講演では、「～をすると安心する」や「～していることで、心にゆとりが持てる」など、避難所や車

中泊や被災生活していく中でストレスを減らし、溜めない事を何度も仰っていました。楽しみながら



出来る日常生活からの備え、母親・女性目線の防災術、女性ならではの気付き・心遣い等の女性の力を大切にされていました。

講演の最後に“歌うママ防災士”のキャッチコピーの通り、東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を歌われました。防災でもあり忘災の（災いを忘れない）ために、歌い続けているそうです。

「今日は、皆さんに防災の種を撒きました。行動する花を咲かせましょう。」という言葉で講演は終わりました。聞いていない皆さんにも聞いて欲しい素晴らしい内容でした。スリッパ作り等サークルに持ち帰り、広めたい

と思います。

昼食後、午後からは、青春亭猿太郎こと酒井亮氏の手話落語、演目は「化粧」「相撲」の2題をして頂きました。手話があまり分からない私でも豊かな表情や表現が分かりやすく面白かったです。

その後、各サークルからの報告「熊本地震後、各手話サークルで取り組んだこと」を3地域（天草・人吉・八代）が発表し、グループ討議「今後、手話サークルとしてどんな取り組みが必要か」等を8グループに分かれて討議しました。各グループでいろんな意見が出たと思います。時間の関係で3グループだけの発表でしたが、それを今後、聴覚障害者に身近な私たちの活動の支援のやり方を学んでいきたいと思います。

熊本県（天草わかぎ） 橋本 健一

## 【大分県】大分県ろうあ者福祉大会

3月4日（日）午前10時から大分市のJ：COMホルトホール大分で「第50回耳の日記念」大会が開催されました。耳の日を記念して、聴覚障害者及び関係者が一堂に会し、相互理解と信頼を深め、もって聴覚障害者等の福祉向上を図ることを目的として、約600名の参加者のもと、盛大に行われました。

第1部の大会式典では、多くの来賓の方々に祝辞をいただきました。

大会宣言は力強く、大会決議案14項目も決議され、大会スローガンを発表して、記念大会が閉幕されました。

第2部は、戸田康之氏（手話ニュースキャスター）を招いて、「生い立ちと、ろう学校での教育実践」と題して、講演がありました

幼稚部は聾話学校で学び、小、中、高、大学



は地域の普通学校で勉強したとのことでした。大学院を経て、現在は埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園の教授として、又、NHK手話ニュースキャスターとしても活躍されています。子ども達と、運動場で遊んでいるときに低い鉄棒で、頭を打ち、

数十針ぬって、その頭の悲惨な状態をみた子ども達から、手話ネーム（頭のうえで片手の平をくるとかえす）で呼ばれるようになったこと等々、気持ちを込めて表現されました。

そして、今の活動状況等をビデオを使って説明されました。とてもよく分かりました。

最後に、開催地大分市から次回開催地の臼杵市へと引き継ぎがなされ、来年、又お会いしましょう！と約束して閉会されました。

大分県通信員 町田 京子

## 【宮崎県】第37回宮崎県手話サークル連絡協議会 研修会

平成30年1月28日（日）10時から15時まで、カルチャープラザのべおか3階ハーモニーホールで、「県内聴障協各支部・サークルについて学ぼう」をテーマに、第37回宮崎県手話サークル連絡協議会研修会がおこなわれ、県内各地から92名が参加しました。

午前中は、県内5つの聴覚障害者協会支部の支部長をパネラーとして招き、パネルディスカッションを行いました。都



城・西諸・宮崎・日向・延岡の5支部（当日は西諸が都合により欠席）の代表者から活動内容についての説明や今後の課題についての報告、意見交換を行いました。

活動人数の減少や高齢化等、共通する課題が顕在化する中で、それぞれの支部で課題解決に向けてどのような取り組みを行っているか、サークルが担う役割は何か、などの内容について再認識する場となり、活発な意見交換がなされました。パネラーのみなさまからは、「支部のことを全体の場で話すのはとても緊張したが、各支部の活動内容を知る良い機会となった。」との感想がありました。午後からは、全体交流会とミニ講演を行いました。参加者で8グループ（10名程度）を作り、交流を実施しました。ジェスチャーゲーム・単語探しゲームなど、グループで協力しながら活動することで親睦を深めていきました。また、延岡市聴覚障害者協会の差波好雄氏に「海外旅行の思い出」と題して、30分ほどのミニ講演を行っていただき、普段関わる事の少ない人々がお互いを知り、交流を深めることに加え、ろう者の生きた手話に触れる機会となりました。

アンケートには参加者の半数の45名から回答をいただきました。（抜粋）

- ・他の協会の状態がよく分かった。どこの協会も同じような課題を抱えていると思いました。
- ・初めての参加なので県内の様子も少しわかりました。
- ・他の地域のろう協の活動について全く知らなかったなので、いろんな話が聞けて楽しかったです。
- ・各地域協会の課題が見えて良かったです。地域サークルも含めて問題解決のため話し合っていただけならと思います。
- ・ジェスチャーゲームでは、伝える事の難しさ、手話を使わず、いかに正確に伝えるか・・・楽しく学ぶ事ができました。単語探しゲーム、勉強になりました。
- ・生きた手話が見られてよかった。改めて手話の魅力を感じました。
- ・貴重なお話、手話の読み取りの練習もでき、勉強になりました。

## 【鹿児島県】手話で話そう県民の集い

2018.3.25 鹿児島市中央公民館

第1部 講演 演題 「来日して5年 アメリカと日本の違い」

講師 マーティン デールヘンチ 氏

第2部 アトラクション 手話落語

演者 宇宙亭 福だんご (竹内 一宏) 氏

会場を埋めつくした参加者は、講演と手話落語を満喫しました。

講演では、講師のマーティンさんがアメリカ手話で表し、それを日本手話、読み取りという方法での情報保障に期待を持って参加した方が多数でした。けれども流暢で美しい日本手話、しかも、来日5年目ということにびっくりしたという声をたくさん聞きました。

先天性の聴覚障がい者。珍しいことではあるが、健聴者の両親が手話に対する理解が深かったということでした。

1500人ほどの普通の学校に通ったが、10~15人のろう者をまとめた学級に7~8人の手話通訳者がついて勉強。予算はすべて州政府が負担しているということで、聴覚障がい者に対する日本とのスタンスの大きな違いがはっきり分かりました。



ろう学校に通った経験はないが、手話に興味があってギャローデット大学に進学。アメリカでのろう教育の起源、その後の歴史、日本への影響等も詳しく説明がありました。



日本への興味があったのは、父親の影響。映画が好きで、DVD等を買って鑑賞している中に邦画も多く、日本に行ってみたいという気持ちが強くなってきて、2004年に6週間留学。2013年に再来日してアメリカ手話を教える日本ASL協会に務め、現在に。

その間、日本のろう女性と結婚。けれども、友だちとの話の途中で机を叩いて笑うと、「マナーが悪い。」とたしなめられたり、日常生活や冠婚葬祭等におけるアメリカと日本の文化の違いにカルチャーショックが多いことなど、興味深い話がたくさん語られました。

その後、参加者といっしょにアメリカ手話に（アルファベット）や国際手話でのあいさつの方法を練習。最後に参加者との質疑応答がありました。

アトラクションは、プロの手話落語家 宇宙亭 福だんご氏のミニ講演会から始まりました。

生後1週間で黄だんを発症。症状を抑えるために打った注射が原因で失聴。ろう学校時代は生徒会副会長、野球部主将を経験。手話落語家の宇宙亭まん福氏に、顔の表情が面白いと無理やり手話落語の稽古場に連れていかれた。稽古を重ね、平成7年に真打ちに昇進。プロの手話落語家になるまでの経緯が語られました。



マーティンさんも手話小話に挑戦

その後、いくつもの演目を熱演。「落ち」までいきつかないのに、

つつい笑いが出てしまう。見て（聴いて）いる人々の想像力をかきたてる、素晴らしい演技でした。

最後に、参加者に手話小話を指導。だれかに演じてもらおうと呼びかけても、みんな尻込み。けっきょく講師のマーティンさんが引っ張り出されて、みごとに上演。その後、何人が舞台上げられて手話小話にチャレンジしました。

福だんごさんの熱演



指宿手話サークルなの花 出森 俊郎

## 【佐賀県】耳の日記念の集い

私は手話歴2年目で今回初めてこの耳の日の集いに参加しました。

モンキー高野さんの講演を聞いて只々圧倒されました。



お話しの面白さにグングン引き込まれてあっという間に終わったという感じでした。

まるで高野さんが手話をしながらお話しされているかのような通訳の方との一体感に感動しました。

また、海外の国の貴重なお話も聞けて「へえー」と思う事が沢山あってこちらも面白かったです。

鋭い感性での形態模写も特徴を捉えられて「そうそう」って感じで大変楽しめました。

これからの学習に活かしていきたいと思います。

キュートで見ていて楽しくなりました。

ステキな笑顔に出会えて大変うれしく思います。ありがとうございました。

伊万里手話サークルの皆様のパフォーマンスはとても

小城市手話サークル 久本 恵美



遅咲きの梅の花がほころぶ3月11日(日)、有田町にある炎の博記念堂にて第58回耳の日記念の集いが開催されました。その中で第2部に行われた、ろう映画監督今井ミカさんによる講演「今井ミカから見たろう映画～ろう映画と聴映画の違い」の感想です。

今井さんは群馬県出身の女性監督。小学生の頃からホームビデオを使って撮影ごっこをしていたそうです。手話言語学を学ばれ、掘り下げて世界各国の手話を広く研究されており、その言語としての魅力を映画をとおして伝えてお

れます。

途中、上映された短編映画「あだ名ゲーム」(第2回アイルランド国際映画祭2014短編映画部門最優秀賞)では、製作の裏話も聞けたほか、ろう者の生活様式ならではの演出の説明もあり、聴者の場合との違いにあらためて気づかされました。エンターテインメントとしての素晴らしさもさることながら、ろう者の文化を知るツールとしても機能している今井さんの映画にすっかり魅了され、ほかの作品もぜひ見てみたいと思いました。最新作の映画「虹色の朝が来るまで」は自身も当事者であるLGBTQがテーマの作品だそうです。佐賀県での上映を心待ちにしたいと思います。

手話サークルきやまの手 松本 香織

## 九手連研修会のお知らせ

### 第26回九手連研修会

- 1 日時：平成30年6月24日(日) 10:00~15:00
- 2 会場：熊本市国際交流会館(熊本市中央区花畑町4番8号)
- 3 内容  
「ろう児の教育現場における“手話”やサークルの関わりについて(仮)」  
○午前の部 講演(10:00~12:00)  
河津 知子氏(大分県立聾学校のろう教師)  
「かわづ寺子屋『ふくろう』の活動を通して(仮題)」  
~みんなちがって、みんないい~  
○午後の部 シンポジウム(13:00~15:00)  
事例報告  
1) 宮崎県・・・「聴覚障がい教育を考える会」における取組報告  
2) 福岡県・・・NPO法人「言葉の森くるめ」における取組報告  
3) 熊本県・・・九州ルーテル学院大学における取組報告  
午前の講演、そして各県の事例報告を踏まえ、フロアーとの意見交換

## 【編集後記】

みなさん耳の日の由来をご存じですか？

私は3月3日の語呂で「みみの日」だと思っていました。これも間違いではありませんよね。3が耳の形に似ているから、との由来もありますね。その他に電話を発明したグラハム・ベルの誕生日が3月3日なのだそうです。彼の父親は発音学者、母親が難聴のピアニスト、奥さんも難聴者だったそうです。シカゴにろう学校も設立しています。聞こえの研究に生涯をささげた方ですね。

また、ヘレンケラーとサリバン先生が会ったのも3月3日とか。この出会いにもベルが関わっていました。単なる語呂と思っていた耳の日にこんな関連があることを知り、ちょっとビックリした3月でした。

九州手話サークル連絡協議会

事務局 〒861-0143

発行責任者：青山寛六

熊本県熊本市北区植木町大和34-2

広報誌担当：高倉 尊広(佐賀県)

森 保夫

発行：平成30年4月20日